

令和元年度第2回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和元年8月9日（金） 午前10時～午前11時30分

2 場所 市役所本庁舎4階 第3委員会室南

3 出席者

(1) 委員

松本委員、森澤委員、岡村委員、小栗委員、片川委員、高橋委員、
松永委員、山本委員

（10人中8人出席）

※欠席委員 岸委員、沼田委員

(2) 事務局

産業観光部文化資源活用課 太田課長、杉野主事

(3) 傍聴者

0名

4 概要

(1) 開会

(2) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

- ・令和元年度文化芸術推進計画策定スケジュールについて

「○」委員からの質問・意見等 「→」事務局からの回答等

○：10月6日開催の未来カフェのテーマは「諏訪原城跡の利活用について」
となっているが、実際に諏訪原城跡を見るか。

→：テーマにもよるが、通常未来カフェは会議室のみで行っている。今回は
諏訪原城跡の見学（学芸員の解説付）をワークショップ前に行うことで、
より多くのアイデアが出ることを期待している。

○：なぜ諏訪原城跡をテーマにしたのか？

- ：このような市民ワークショップは、ある程度具体的なテーマを設定したほうが議論し易い、アイデアが出し易いと考えている。テーマとして諏訪原城跡以外にも川越遺跡等が候補として出された。現在のお城ブーム等もあり、今回は諏訪原城跡をテーマとした。
- ：旧金谷町時代から諏訪原城跡の活用を進めてきたが、あまり進展していないように感じる。
- ：諏訪原城跡がテーマでは、旧市内や川根地区等、金谷地区以外の方々の関心が薄く、参加者が集まりにくいのではないかといったご意見もいただいたが、昨年度末にはビジターセンターも完成し、来客も増えていることから、諏訪原城跡をテーマとした。
- ：地元の人にはあまり評価されていないかもしれないが、歴史的価値の高い資源であると思う。未知の部分も多く、おもしろいと感じている。
- ：お堀の規模なども大きく、魅力ある資源であると思う。保存整備をしっかりと行うとともに、利活用を進めていきたいと考えている。

(3) 協議事項

- ・ 文化芸術推進計画施策の体系（案）について
- ・ 文化芸術推進計画施策の展開（案）について

「○」 委員からの質問・意見等

「→」 事務局からの回答等

- ：事務局でこれまでの経緯を整理し、資料2-1にある施策の柱と施策を作成しているが、重点的に行っていく施策がはっきりとわからない。本協議会では、今後、島田市が特色ある文化芸術施策を展開していくために、何が必要か、どのようなことに特に力を注ぐべきか議論していきたい。
資料2と資料3を分けた理由はなにか。
- ：資料2をより細かく説明したものが資料3になる。
- ：資料2で今までと変わったところは何か。
- ：基本方針を加え、施策の柱と施策の中に、島田市を特徴づける言葉を盛り込んだ。
また施策の柱の順番については、基本方針のキーワードになる「交流」を意識し、交流と関わりが深いものを上の方に示している。
- ：以前の会議で、文化芸術基本法の6分野で整理するといった意見があったが、施策を6つに集約することができなかったのか。

- ：検討したが、分野ごとに柱立てすることは難しかったため、現在示している形となった。
- ：施策の大黒柱、真ん中を通る串のようなものが見えてこない。
- ：島田市が特別に力を入れていくものを示して、大黒柱としたい。
- ：米軍が避暑にくるまちであった軽井沢市は「国際親善都市」としていた。このため、学校では「会う人毎に挨拶をしなさい」、「道を聞かれたらしっかり答えなさい」、この2つだけはしっかりと教えていた。外国人も含め、誰に対しても、「自分達は何ができるか」ということがまちづくりの柱となっていた。この計画でもこのような柱となるものを示していかなければならない。
- ：大井川を中心とした東西の交流、川止め文化などの歴史を反映していくこともできる。
様々な立場の方々に構成されている協議会だからこそ、既成概念にとらわれない、思い切ったご意見をいただければありがたい。
- ：ひとつの一級河川に、市内で14本もの橋が架けられていることは全国的にも珍しい。島田を特徴付けることとして、「世界の架け橋」になるようなものを島田市から発信していくことが大切ではないか。
- ：川止めで人々を滞留させ、様々なものを発展させてきたことが島田の文化。橋がない時代は全国から来た人々が滞留したが、橋が架けられたことで単なる通過点になってしまったという現状がある。
- ：過去に橋が架けられていなかったことで人々が自由に行き来できなかった地域が、現在同じ行政区域になっていることはとても珍しい。これにより残っている文化を計画に結び付けることはできないか。
- ：川は境界という意識があり、川を中心としたまちづくりは珍しい。大井川の強みは、自然や水が綺麗といったものだけではない。市町合併の経緯も含め、大井川を島田市の特徴とし、そこに橋を加えることでさらに他の行政区と差別化が図れる。
また、蓬莱橋は景観も良く、「世界一の長さを誇る木造歩道橋」としてギネスブックにも認定されているが、それだけが魅力ではない。自分たちでお金を出して作り、お金を出して渡る。公共事業に頼らず、自分達で維持してきた点が面白く、人々の気合を感じる。
橋の文化、架け橋という言葉が交流に繋っていくとを感じる。
蓬莱橋は島田のアイコンになると思うが、インタープリターほどの施策に入るか。
- ：「情報集約と発信力の強化」で考えている。

- ：資料２－１の概念図もわかりやすく、このような書き方でいいのではないかと思う。このようにしなければ、今後の広がりがなくなっていくように思う。計画を見る人たちの考えなどに制限を設けないような表現が必要ではないか。
- ：資料２－１までは前回までのまとめといった印象で理解している。
資料２－２、２－３については文化芸術が身近にあるものだと感じた。
- ：資料２－２、２－３を計画に掲載する予定はあるか。
→：掲載は資料３のみで、資料２－２、２－３については、現在掲載を予定していない。
- ：資料２－２、２－３について、関連事業が空白になっている部分も、実際には行われている事業があり、これから空白の部分を埋められるように思う。行政が行っている事業も、市民にとっては身近なものとして感じてもらう必要があるのではないか。
- ：市民文化祭も関連事業ではないか。ジュニア・エコノミー・カレッジなども人材育成を目的とした素晴らしい事業として示すことができるのではないか。
- ：無人駅の芸術祭や島田工業高校の模擬原爆のVTR製作なども素晴らしい活動だと思う。島田工業の取り組みは教育を超えていると感じる。この取り組みを率いている先生は素晴らしい人材として示すことができるのではないか。
→：資料２－２、２－３にある関連事業の洗い出しをすると、市で実施されていない事業が明確になる。これを施策として計画に示すことで、事業化に繋がっていく。
- ：今実施していることは続けていけばいいだけ。関連事業を増やしていけるといいなと感じた。
- ：人材の育成等に関連する事業が少ないと感じた。市民の活動団体等が一番苦労している点だと感じている。市民の頑張りだけでは限界があるため、行政が加わってくるとありがたい。
関連事業が空白の部分は、空白のまま計画に掲載するのか。
→：現在、各課に照会をして事業の洗い出しを行っているので、空白の部分は何らかの事業で埋まる予定でいる。もし、関連事業がなければ新規の事業などを提案するような形で示していきたい。
→：資料２－２、２－３は具体的な事業を示している。資料３が実際に計画として冊子になるため、みなさんに見ていただき、実際の完成品のイメージをつくっていただきたかった。

- ：資料3は文字を追うだけの形になってしまい、文化芸術が自分の生活からは遠い存在のもののように感じた。資料3だけを市民が見るのではあれば、具体的な取り組みを掲載した方がいいのではないか。
- ：資料3については、難しく感じた。内容がわかったような、わからないような印象がある。何が書いてあるかを市民に伝えるためには、施策の柱をもっと短く、簡単な言葉にしてみてもどうか。
- ：関連事業を示すことで、どのようなことを行うかイメージしやすくなるが、現状の事業を整理しているだけという印象を受けた。計画の「推進」の部分、未来に向かっていく部分が少なく物足りなさを感じた。
また、文化は広く人間の営み全て、芸術は新たにつくっていくものと考えている。芸術の部分、つくる部分に物足りなさを感じた。
今後、文化施設が必要という話が出てくる可能性も考慮した方がいいのではないか。文化施設の建設に対して賛成でも反対でもないが、文化施設を新しく建てる場合、議論を始めてから実際に建設を開始するまで5年はかかると思う。プラザおおりの耐代年数を踏まえて計画の中の施策を考える必要がある。建設が必要か、どのような施設が必要か検討するための材料になり得るような施策を示す必要があるのではないか。
- ：世代を超えた交流の場や気運を盛上げる施策が必要ではないか。
古民家を活用したギャラリー等はどこに入るか。文化施設の建設を検討する際の材料を示しておきたい。
- ：「1. 誰もが身近に参加・活動できる環境づくり」の中の「人が集う文化芸術活動の場の創出」と考えている。
- ：最近では、異年齢交流ができなくなっている。
- ：同世代であれば国が違っても聴いている音楽が同じ等の理由で、すぐに繋がりを持つことができるが、世代を超えた交流ができていないことは世界共通の課題ではないか。世代を超えた人たちを交流させることが文化政策の重要な役割だと感じている。
- ：三世代同居が当たり前であった時代は家庭内で歴史的な話や格言等を次世代に伝えていくことができていた。管轄している行政が違うために難しいものとなっているかもしれないが、子供が減った学校に高齢者が入っていくこともできるのではないか。
- ：高齢者であっても20代であっても共有できる空間があることが廃校の利活用の強み。活用の仕方によっては、広がりを見せる分野だと感じている。
- ：多世代交流については現在、「多様な人々」という言葉でまとめているが、具体的に示す必要があると感じている。
- ：外国人との交流も重要であるが、日本人の多様性も重要ではないか。

- ：現状の整理はできてきていると思うが、夢を語ることが大切ではないか。実現するかどうかは分からなくても、10年後を見据えた施策を打ち出した。施策1～9の中で「こんなことをやったらどうか」といった具体的な事業を出して欲しい。施策を大きく変えることは難しいと思うので、具体的な事業を示すことで未来に繋げるものとしたい。
- ：大井川が島田の文化の象徴であると思う。「越すに越されぬ大井川」と言われたように、なかなか川を渡ることが出来なかった歴史を知ってもらうことも重要ではないか。川を渡るということが大変だったことを体験できるようなワークショップなどをやってほしい。大井川の歴史がどうやって育まれてきたのか市民一人一人が実感できることが大切だと思う。
- ：この計画で夢を語れるようにしたい。川越遺跡は現代的な建物も混在している点が残念に思う。島田宿と金谷宿が大井川で分断され、それぞれに人が滞留していたことを考えると、川越遺跡が島田側と金谷側、両方にあると面白いと思う。
- ：資料4の期待される役割をもっと細かく示した方がよいのではないか。自分達には何が出来るのか、より細かく、明確に示すことで、市民は取り組みやすくなるのではないか。

(4) その他

- ・次回は10月15日（火）15時から、推進体制の検討と計画書素案の確認策について協議を行う予定。資料は整い次第送付する。

(5) 閉会